

守ってくださる方の心を大切に

早川中学校 二年

地田 銀志朗

僕は早川町に住んでいます。山あいの山

村のため、人口は非常にすくないです。小学

校四年生の冬休みに東京から引越してきた

時には、あまりの山深さに驚きました。年を

越すと、雪が積もり、さっそく土砂崩れが発

生しました。その後、徐々に町のおちこち

が崩れていき、その度に片側交互通行や、時

間通行止が起き、土砂災害の恐ろしさを知る

ことになりました。

今では、土砂災害は起きていませんが、雨

畑川という川に土砂がたまると、あふれそう

になつてしまつています。町でも土砂の撤去

をしているるそうなのですが、道が狭く、少し

上流の方にたまっているため、あまりはかど

っていないようです。台風時には、川

が増水し、堤防を乗り越え、池溢れしま

ます。

このように、僕の住む早川町では、土砂災

害が大きな問題となつています。早川町は
 各家庭にハガードマツを配るなどして対策
 をとつていふたいて他るのですが、僕はそ
 のハガードマツを見るたびに、恐怖心に襲
 われます。早川町には、小さな集落があちこ
 ちに点在していて、その集落ごとに地回があ
 ります。そして、なんとその中には、集落全
 体が「急傾斜地崩壊警戒区域」で、「土石流
 警戒区域」に指定されていたり、避難所が遠
 くにあつたり、危険な場所にあつたりするこ
 もあるのです。僕の住んでいる黒桂集落は、
 全体がすっぽりと黄色に覆われてしまつてい
 ます。もちろん、避難所は危険な場所に位置
 しています。もはや「避難所」ではなく「被
 害」になつてしまつていたり、た有様です。
 これらは自然現象なので、未然に防ぐとい
 うことは難しいかも知れませんが、実は黒桂集
 落には、巨大な砂防ダムがありません。い
 つも
 その前を通ると、そのスケールの大きさに驚
 かされます。見るからに頑状そうで、とても

安心感があります。しかし、これで安心して
 はいけません。実際、一九五九年一昭和三十
 四年に発生し、日本に上陸した台風十五号
 つ伊勢湾台風によつて、町内のあちころで
 川が氾濫し、家屋や橋梁が流されてしまつた
 そうです。もちろん町外へと通れるた一つ
 の道である県道三十七号線は通行止めとなり、
 約千二百人余りの町民の方々が、孤立状態と
 なりました。このような過去を二度と繰り返
 さないよう、日頃から懐中電灯や非常食な
 どの防災グッズを準備しておく必要があると
 僕は考えています。
 早川町は、とても長い間袋小路で、県道が
 通行止になる度に孤立してしまつていました。
 ところが今、そんな早川町に、光が差ししてい
 ます。今、新たな連絡路で、町内最北の集落
 である奈良田集落とお隣りの南アルプス市旧
 芦安村とを結ぼうという計画が進んでいるの
 です。これが完成すると、県道が土砂崩れで
 通行不可能になつたとしても、新しい連絡路

を使えば、甲府に買い物にも行けろし、少し
 遠いですが富士急ハイランドに遠足に行くこ
 ともできます。これは、土砂崩れが北側で起
 こった場合にも同じです。
 その他に、早川町がとつてある、代表的な
 対策を、ご紹介もします。町内の小学校五年生
 が必ず参加する、砂防見学会です。この会で
 は、町内にある砂防ダム、砂防堰堤の見学、
 町内で起きた土砂災害の振り返り、シヨベル
 カーの試乗をさせていたたきました。見学し
 た川は保川といふ川で、富士川の支流である
 早川の、さうに支流に当たります。支流の支
 流にすぎない保川ですが、なんと上流には、
 四つもの砂防ダムや砂防堰堤が存在します。
 土砂災害を防ぐことの大切さを学ぶ、いい機
 会にやつています。
 早川町は、県内、いや国内でもかなり土砂
 災害が多いのではないでしうか。前述した
 ように、土砂災害を防ぐことは非常に大変な
 ことなのです。しかし、決して諦めず、少

しでも被害を抑えようと努力することか、と
ても重要なのではないでしようか。一
また、町役場の方や、建設会社の方は、僕
たち、私たちを災害から守ろうとしてくださ
っています。決してその気持ちが水の泡にな
ることがないように、これから生活していま
ましよう。